

実践 1

ふるさと 甚目寺

一人と人とのつながり，人と地域とのつながりを大切にする ESD の取組

あま市立甚目寺小学校 侘美 茂

1 はじめに

環境，経済，社会・文化などの様々な問題は，身近なものから地球的なものまで，人と人とお互いの考えをもって話し合い，その考えをすり合わせていくことで，解決，改善に向かう。例えば，地球環境問題が緊急の課題として，世界中で取り扱われるようになって久しい。地球温暖化防止のため，温室効果ガスの排出量削減を目指した会議が開かれ，削減目標の数値が設定された。それぞれの国の状況を考慮した数値は，この会議で話し合い，決められた。話し合いで考えをすり合わせるには，人と人とお互いを認めたり，お互いの権利を尊重したりして，つながり合おうとすることが大切になってくる。

本校に隣接する甚目寺観音は飛鳥時代，推古天皇 5 年に創建された尾張地方でも屈指の古刹である。鎌倉時代には一遍上人が訪れ，桃山時代には清須城主福島正則が南大門の仁王像を寄進した。この仁王像の胎内には，平成 20 年からの修復中にそれを裏付ける墨書が発見されている。この地域は甚目寺観音の門前町として栄えた。また，甚目寺観音から東の五条川畔の萱津という川湊^{みなと}は，鎌倉街道の通る濃尾交通の要所であり，将軍が尾張を通過するときには宿泊した地であった。全国唯一の漬物の神様である萱津神社もこの地にある。

このような甚目寺観音をはじめとする歴史的・文化的・伝統的な遺産のある甚目寺を私たちのふるさととしてつなげていくために，自分たちがこの地域で残したいもの，守りたいものに目を向けることが大切になってくる。

以上のことから上記の研究テーマを設定し，生活科・総合的な学習の時間を中心に ESD の考え方，視点で見直す取組を行うことにした。



2 研究の目的

2 年生の生活科，「レッツゴー町たんけん」では，地域のお店について学習する。出かけるお店は甚目寺観音の門前町として残る昔ながらの商店街の中のお店がほとんどである。どのようなお店があるか事前に調べ，実際にお店に出かける。お店は何を売っているのか，どのような仕事をしているか話を聞き，質問に答えてもらって帰ってくる。その後お礼の手紙を書いて届けるというのが例年の学習

の流れである。お店の人と関わることはできるが、持続可能な社会を築くために、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを大切にできたかと考えると、お店の人との関わりが深まらず、今までの学び方に疑問が出てきた。しかし、今までやってきたものを一から作り直すのではなく、従来の学び方を、教える側がE S Dの考え方、視点で創意工夫していけばよいと考える。

このような考えから、E S Dの学校全体の取組とE S Dの考え方、視点を取り入れた授業づくりについて実践し、検証することとした。

3 研究の方法

(1) E S D活動テーマづくり

学校教育全体をE S Dの考え方、視点を取り入れた教育活動になるように、E S D活動テーマを設定する。次のような考えをポイントにした。

- ア 全ての教育活動につながるキーワードをつくる
- イ 人権を尊重する態度を育むことを柱とする
- ウ 学校教育目標を基にテーマを決め、目指す子ども像と育みたい力を設定する
- エ 教科間につながる教育活動を実践する
- オ 人と人とのつながり、人と地域とのつながりを大切にする

(2) E S Dカレンダー（教科横断的学習構造図）と生活科・総合的な学習の時間の指導計画づくり

従来の人権教育年間指導計画や生活科・総合的な学習の時間の指導計画を以下のポイントで見直す。

- ア 指導計画は、育みたい力を明確にしたねらいと学習過程、地域の人材・関係機関と連携したものを作成する
- イ 生活科・総合的な学習の時間と他の教科・活動とのつながりを明確にする
- ウ 実践時期などを考慮して、系統性や関連性を考える
- エ E S Dカレンダーの構成について、実践しながらよりよいものに修正していく

(3) E S Dの考え方、視点で見直す授業づくり

生活科・総合的な学習の時間を中心に、持続可能な社会を築くための力を育みたいと考える。そのために、持続可能な開発のための教育の10年推進会議（E S D-J）が出している文献を参考に次のような学び方をポイントにした。

- ア 五感を働かせることができる体験、校内外の両方の体験をつなげる
- イ 子どもの主体性を尊重し、それぞれの発見・気づきを重視する
- ウ 子どもたちが、発見したり気付いたりしたことを表現する機会をもたせる
- エ 地域の様々な立場、世代の人たちと学ぶ
- オ 地域の人や自分たちが、この地域で残したいもの、守りたいものに目を向ける

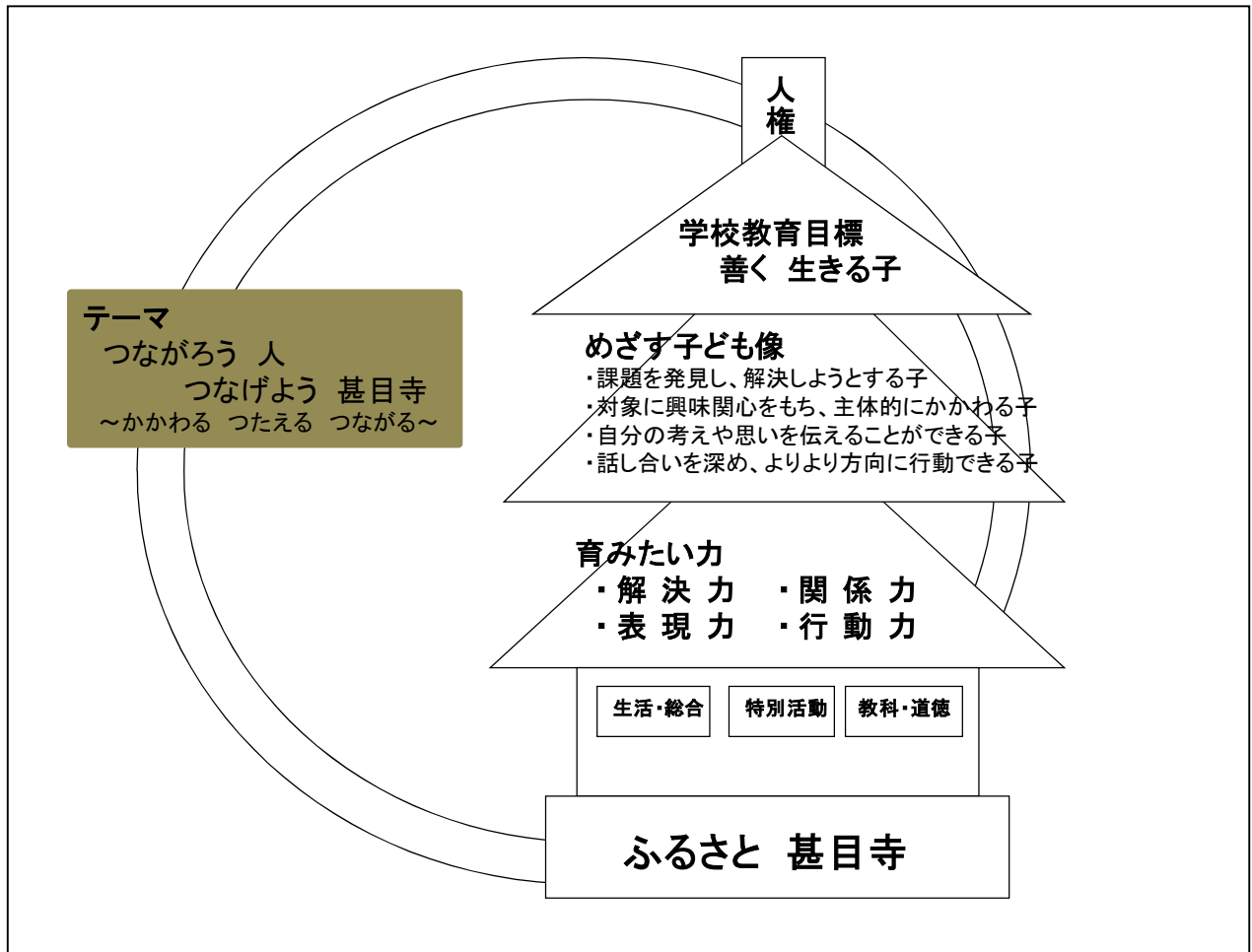
4 研究の内容

(1) E S D活動テーマづくり

今年度まず始めに行ったことは、E S Dを学校運営機構で全ての教育活動につながるように位置付けたことである。そして、E S Dを十分に意識でき、全ての教育活動につながるキーワードとテーマ「つながろう 人 つなげよう 甚目寺」を設定した。地域を土台、人権を柱として、学校教育目標を基に目指す子ども像、それを達成するために育みたい力を示した。本校が今まで行ってきた総合的な学習の時間で、身に付けさせたい4つの力として、「問題解決力」、「人間関係力」、「自己表現力」、

「自己評価力」があった。今回これを参考に自分の学習したことを振り返るだけでなく、学んだことを行動に移していく必要があると考え、「自己評価力」を「行動力」と変更し、育みたい力を次の4つとした。

- ア 解決力→発見・気付いたことを自ら追究し、解決、改善しようとする
- イ 関係力→解決、改善に向けて、進んで人と関わり、つながろうとする
- ウ 表現力→発見・気づきや解決、改善したことを自分なりに表現し、情報発信しようとする
- エ 行動力→自分の学習を振り返り、学んだことを行動に移す



(2) ESDカレンダー（教科横断的学習構造図）と生活科・総合的な学習の時間の指導計画づくり
ESDカレンダーづくりにあたっては、テーマの「つながろう人 つなげよう甚目寺～かかわる つたえる つながる～」から、生活科・総合的な学習の時間の指導計画で中心的に取り扱う単元を選択した。それと人権と教科・活動との関わりをカレンダーに示すことにした（p25 参照）。

ア ESDカレンダーの構成

生活科・総合的な学習の時間を中心に、教科・道徳、特別活動（学級・ペア学年・異学年・児童会）の3領域で示す。それぞれの領域内のつながりと他の2領域（教科・道徳、特別活動）との関わりを示す。

イ 生活科・総合的な学習の時間の指導計画

従来のESDカレンダーとともに更に生活科・総合的な学習の時間の中心的な指導計画を示す（p26, 27 参照）。次の項目を指導計画に含める。

- ・ 育みたい力（解決力・関係力・表現力・行動力）を考えたねらいを示す。

- ・ 学習過程は、「ふれる・つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「広める・見つめ直す」で構成する。
- ・ 活用したい地域の人材、関係機関を示す。

ウ 人権教育の年間指導計画として利用

従来の年間指導計画を見直し、精選することによって、生活科・総合的な学習の時間、教科・道徳、特別活動と人権教育との関わりを分かりやすく示す。

このように作成した「ESDカレンダー 第2学年」、「生活科 第2学年指導計画」、「第2学年 ESD関連学習指導計画」を資料として p25～27 に示す。

(3) チェックシートによる分析

2年生の生活科「この町大すき ぼくたち町のたんけんたい」の38時間をチェックシートにあてはめて分析した。生活科のキーワードである「気付き」を「直感→実感→納得」の3段階としてとらえ、方法（技能）の①批判的思考を「直感」、②システム思考を「実感」、③未来志向思考を「納得」と置き換えてチェックを行った。

方法(技能) 内容(概念)	①批判的 思考 (直感)	②システ ム思考 (実感)	③未来志 向思考 (納得)	④問題対 処 のスキル	⑤行動の スキル	⑥コミュニ ケーションのスキ ル
I 人間の尊厳				● 1		○
II 将来世代への責任	● 2					○
III 自然との共存		● 3			○	
IV 経済的社会的公正			● 4		○	
V 文化の多様性と尊厳						

○印は従来からあったと考えられる視点、●印は改善点として加えられた視点

- 1：行く場所や行くお店を決める過程で、グループ内で行きたいところを話し合わせたり、グループ間で調整の話し合いをさせたりして決めさせる。
- 2：地域の様々な立場、世代の人たちと積極的に話し、いろいろな意見・考えに気付く。
- 3：五感を働かせることができる体験を通して、本物で学ぶ大切さに気付く。
- 4：校内外の両方の体験を通して、人と人とのつながり、人と地域とのつながりに気付く。

(4) ESDの考え方、視点で見直す授業づくり

2年生「この町大すき！ぼくたち町のたんけんたい」の実践

ア 五感を働かせることができる体験、校内外の両方の体験をつなげる

2年生の生活科、「レッツゴー！町たんけん」では、甚目寺観音の門前町として残る昔ながらの商店街の中のお店に行く。身近な商店街ではあるが、近くに大型スーパーもあり、子どもたちにとっては関わりのないお店が多い。そこで、事前にお店のの人に子どもたちが五感を働かせることができるようなお店の紹介など、工夫をしていただくようお願いした。また、教師側はただ見たり聞いたりしていただくだけでなく、お店に入ったときのおい、お店の内や移動中に季節を感じるようなものがないか発見したり、気付いたりしようと指導した。そうしたところ、子どもたちからは、次のような感想が出てきた。

- ・ 花屋さんや和菓子屋さんで、季節の花やおまんじゅうを教えてもらった。
- ・ お店の出入口の上にあるツバメの巣を大事にしている話をしてくれた。
- ・ 線香屋さんのおい、おばあちゃんの家と同じにおいがした。
- ・ 肥料屋さんで、肥料のふくろを一輪車ではこんだら、とても重たかった。

レッツゴー！町たんけん



和菓子屋さん



花屋さん



肥料屋さん



また、校内外の両方の体験をつなげることにより、体験の質を高めるようにした。「ぐんぐんのびろ！げんきにそだて」のさつまいも栽培や甚目寺の特産野菜の栽培と「レッツゴー！町たんけん」での和菓子屋さんや「もっとしりたいな！町のこと」で見つけた畑で、地域の特産野菜を知ったこと（校外の体験）で、学年園で育てる野菜（校内の体験）への興味をもたせることができた。

イ 子どもの主体性を尊重し、それぞれの発見、気づきを重視する

2年生は校内の学年園でピーマンやきゅうり、ミニトマトやさつまいもを栽培している。さつまいも以外の野菜は、子どもたちから「何個ぐらいできるのかな」という疑問から、収穫した個数が分かるように掲示板に種類ごとにシールを貼ることになった。算数のグラフにつながる学習ができた。さつまいもは収穫したら料理して食べる計画を立てたところ、子どもたちから、「和菓子屋さんで鬼まんじゅうのレシピを教えてもらってこよう」という意見が出て、「レッツゴー！町たんけん」で実際に教えてもらってきた。レシピとともにおいしい鬼まんじゅうにしたいならおいしいさつまいもをつくるのが大切だよと教えられ、その後、子どもたちは学年園の草取りや水やりを一生懸命行った。

また、行くお店を決める過程で、一度商店街を下見してから、グループ内で行きたいお店を話し合い、実際に行くお店を決めさせた。一つのお店に行けるグループ数は限られるので、グループ同士でも話し合いをもたせた。お店でする質問も事前に自分がしたい内容を考えさせた。

さつまいもづくりから鬼まんじゅうづくりの様子



苗うえ・水やり



鬼まんじゅうのレシピを聞く



さつまいもほり



鬼まんじゅうづくり

ウ 地域の様々な立場、世代の人たちと学ぶ

古くからある商店街のお店の人は、二世帯、三世帯でお店を営んでいるところが多い。お店経営を通して、いろいろな立場で地域に関わり、地域のことをよく知っている人がほとんどである。本校の卒業生も多く、学校への理解や協力も惜しみないことが分かる。このような人たちから地域のお話をさせていただきたいと事前をお願いした。

また商店街以外の場所に町たんけんに行ったときには、会った人や仕事をしている人たちに積極的に挨拶し、聞きたいことを聞いてみようとして事前に指導した。実際に行ってみると、散歩している方や買い物途中の女性、稲刈り中の農家の方などに声を掛けたり掛けられたりして話す様子がみられた。

エ 子どもたちが、体験して、発見したり気付いたりしたことを表現する機会をもたせる

本校では、毎年11月に生活科・総合的な学習の時間で学んだことを、保護者を招待して発表する機会を設けている。学年単位で発表しており、発表の仕方も各学年で工夫している。2年生は商店街のお店の人たちにも招待状を出している。

教師側は表現する機会を多くしたり、表現の仕方を工夫させたりしている。お店の人への感謝を表す札状を訪問時の写真を入れてつくったり、つくった鬼まんじゅうをお店へ配ったりした。鬼まんじゅうは大変喜ばれ、2年生が手作りしたことに驚いてみえた。また、写真入り札状を店先に飾っているお店もあった。発表会では来ていただいたお店の人に、自分たちで作った宣伝ポスターをプレゼントする予定である。



オ 地域の人や自分たちが、この地域で残したいもの、守りたいものに目を向ける
教師は、出会った人たちに、地域の好きなお店や場所、地域の素晴らしいところやものなどを積極的に聞こうと事前に指導して、町たんけんに出掛けた。

5代続く和菓子屋さんを訪ねた子どもたちの中に、「自分たちの町にこんなに昔から続いているお店があるなんて知らなかった。大事にしていきたい」と発表した子がいた。また、「何でもそろそろスーパーもいいけど、商店街のお店もこれから行きたいね」とか「商店街のお店の人と仲良くなったので家の人が行くときに連れて行ってもらいたいな」と言った子もいた。

5 研究のまとめと今後の課題

(1) ESD活動テーマの設定とESDカレンダー・指導計画の作成の成果

ア 今までの研究主任を中心とした取り組みから、学校全体の取り組みとして教師全員がESDの考え方、視点を理解するようになった。

イ 人権教育や生活科・総合的な学習の時間の指導計画を見直すことによって、教える側の考えが整理され、見通しをもってより計画的に指導できるようになった。

ウ ESDの考え方、視点が生活科・総合的な学習の時間、教科・道徳、特別活動のどこにあるか、またそれぞれの関わりが分かった。

エ 発表会に向けた生活科・総合的な学習の時間になっていたのが、年間を通して取り組めるようになった。また、各学年の取り組みが他学年をはじめだれにでも把握しやすくなった。

オ 年度途中の修正や改善がしやすく、よりよいものにしていく取り組みがしやすい。

(2) 地域の資源、人材、関係機関の積極的な活用

人と人とのつながり、人と地域とのつながりを意識するようになって、人材や関係機関の活用を積極的に行うようになった。地域をよく知ること、専門的な知識を得ることは子どもにとって大変重要である。教える側が、地域をよく調べ、活用できる資源、人材を開拓するようになった。子どもも身近な人と関わったり、身近な地域に出掛けたりすることで、地域とのつながりを感じ、発見・気付き

の質の高まりを感じた。

(3) ESDの考え方、視点で見直す授業づくりの成果

教師側が本物を体験させようと工夫することによって、子どもたちは素晴らしい発見や気づきをするようになった。また、この発見や気づきは、学習する対象への興味・関心をさらに高め、人や地域に積極的なつながりをもとうとする子どもが出てきた。五代続く和菓子屋さんに行った子どもたちなどから出てきた言葉に地域への愛着心が育まれてきたことを感じた。

「レッツゴー！町たんけん」で学んだことを野菜栽培に生かしたり、野菜栽培を算数の学習につなげたりするなど、今まで気付かなかった学習や活動との関わりも意識する子どもが出てきた。商店街のどのお店に行くか決めるとき、グループ内やグループ間で話し合いをさせたところ、グループ内で行きたいお店を話し合い、グループ同士でもお店の重なりを話し合っ、自分たちで決めていくことができた。

(4) 今後の課題とおわりに

ESDの考え方、視点で見直す授業づくりのポイントの一つである「校内外の両方の体験をつなげる」で、1年の生活科、3年～6年の総合的な学習の時間の取組をチェックした。下の表のようにどの学年も校内外での体験活動等が行われていることが分かった。

学年	活動テーマ	校外での体験活動等	校内での体験活動等
1	みんななかよし！	・さあ！みんなででかけよう	・ぐんぐんのびろ！（朝顔）
2	この町大好き！ぼくたち町のたんけんたい	・レッツゴー！まちたんけん ・もっとしりたいな町のこと	・ぐんぐんのびろ元気にそだて（野菜栽培）
3	人にやさしい町づくり	・校区たんけん（総合福祉会館、総合体育館）	・福祉実践教室 ・お年寄りから学ぼう
4	地球にやさしい町づくり —われら環境防衛隊—	・ごみ焼却場見学 ・自然体験プログラム	・出前授業（温暖化、下水処理、都市緑化、共生住宅）
5	われら産業調査隊	・甚目寺の会社、工場、農家、商店訪問	・出前授業（キャリア教育）
6	ふるさと甚目寺	・甚目寺民俗資料館見学 ・地域行事への参加	・出前授業（甚目寺説教源氏節、ハンセン病）

しかし、「体験をつなげる」という点で見直してみると、十分でない学年が多いことが分かった。校内外の体験の内容をどのようにつなげるか、時期や順番の工夫など検討すべきことが出てきた。今後は活動テーマに沿った校内外での体験等になっているか、その体験どうしがつながっているか確認したり、チェックシートを利用して改善点として加える視点を検討したりする必要がある。

本校の研究はESDの他に人権教育にも力を入れているので、学校全体で研究に取り組む体制を更に整え、全教師のESDへの理解を深めるとともに、授業実践を中心に組み込んでいきたいと考える。

授業づくりでは、5つの視点を取り入れて見直したところ、子どものよりよい変化がみられたが、地域で残したいもの、守りたいものに目を向けるきっかけをつくった程度だった。今後、高学年にかけて、甚目寺観音をはじめとする甚目寺の歴史的・文化的価値のあるものを題材にして学習していけるようにしたい。この地域は昔、甚目寺観音を中心に発展してきた。持続可能な社会を築くための基礎・基本の学習として、特に甚目寺観音を中心とした学習活動をつくっていきたい。

授業は人と人のつながりを感じ、お互いの考えをすり合わせるができる一番大切な教育の場面

である。授業を大切にすする研修の一つがE S Dへの取組であり，この取組が持続可能な社会を築くための人づくりになっていくと考える。

ESDカレンダー

第2学年

あま市立基目寺小学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教科・道徳 (国語) (音楽)(図工) (道徳) ①思いやり・親切 ②生命の尊重 ③向上心 個性の伸長	今週のニュース	かんさつ名人になろう	スイミー	うれしいことば			お手紙	友だちのこと知りたいな	わたしはおねえさん	みんなで決めよう	スーホの白い馬	たのしかったよ二年生
生活・総合	メッセージ	ぼくは二年生①	あじさいの町	森のともだち		ぼくのとんじょう日②	おばあさんができたよ①	たいふうのよる②		白いくつ		小人と青虫
特別活動 (学級) (異学年) (ペア学年) (児童会)		あいさつ名人になろう	あいさつ名人になろう(バージョンアップ)	どうぞ！ありがとう！		上手なごめんなさい	めざせ！マナー名人！	まきもどして、ドンマイ		ナイスフォロー		
	なかよくしよう会		ドッジボール大会			運動会 玉入れ 表現運動		ドッジビー大会				
				歌声集会				歌声集会				
	1年生を迎える会		基小まつり							縄リピック		6年生を送る会
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> この町大好き！ぼくたち町のたんけんたい </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> レッツゴー！町たんけん(商店街) もっとしりたいな！町のこと こんなすてきな町なんだ！ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> ともだちいっぱいなかよくしようね ぐんぐんのびろ げんきにそだて(野菜①) ぐんぐんのびろ げんきにそだて(野菜②) みんな大きくなったよね </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> 1年生を迎える会 基小まつり 歌声集会 運動会 玉入れ 表現運動 ドッジビー大会 歌声集会 縄リピック 6年生を送る会 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> 基小なかよし宣言 アルミ缶・ペットボトルキャップ集め </div>											

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>単元名「レッツゴー！町たんけん」(16時間)</p>		<p>単元名「もっと知りたいな町のこと」(10時間)</p>		<p>単元名「こんなすてきな町なんだ」(12時間)</p>		<p>単元名「みんな大きくなったよね」(16時間)</p>					
<p>【ねらい】</p> <p>自分たちの住む町を探検し、町の自然、地域で生活したり働いたりしている人々、商店街、公共物などに興味をもち、愛着をもつことができる。</p>		<p>【ねらい】</p> <p>自分たちの住む町を探検し、調べたり、体験したり、教えてもらったりした町のよさを、いろいろな人に知ってもらう。</p>		<p>【ねらい】</p> <p>町の施設や商店街のすてきなところを宣伝・PRすることを通して、自分たちの町のよさに改めて気付いたり、町への愛着を広げたり深めたりすることができる。</p>		<p>【ねらい】</p> <p>これまでの成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これから自信をもって意欲的に生活できるようにする。</p>					
<p>【ふれる・つかむ】</p> <p>○基目寺商店街には、どんなお店や公共物があるか知り、探検の計画を立てる。</p> <p>【調べる】</p> <p>○お店や公共物など知りたいことについて質問したり、調べたりする。</p> <p>【まとめる】</p> <p>○聞いたり調べたりしたことをわかりやすいようにまとめ、発表会の資料を作る。</p> <p>【広める・見つけ直す】</p> <p>○お世話になった人たちに、お礼の手紙を書く。</p>		<p>【ふれる・つかむ】</p> <p>○給食センターやプロムナードなどで、質問したいことや見たいことを話し合う。</p> <p>【調べる】</p> <p>○栄養士さんや、町の人にインタビューを行い、町のことについて調べる。</p> <p>【まとめる】</p> <p>○調べたこと、聞いたことをもとに、グループで発表の準備を行う。</p> <p>【広める・見つけ直す】</p> <p>○町のよさについて、調べたことをポスターセッション、紙芝居、劇などで発表を行う。</p>		<p>【ふれる・つかむ】</p> <p>○町の施設や商店街のすてきなところを地域の人々に知らせる方法について話し合う。</p> <p>【調べる】</p> <p>○町の施設や商店街の宣伝・PRする内容を考える。</p> <p>【まとめる】</p> <p>○広告媒体(ポスター、チラシ、歌、マスコットキャラクター、標語、)にして、宣伝・PRする準備を行う。</p> <p>【広める・見つけ直す】</p> <p>○町の施設や商店街のすてきなところを宣伝・PRする。</p>		<p>【ふれる・つかむ】</p> <p>○小さいころのことを知る方法について話し合う。</p> <p>【調べる】</p> <p>○自分の小さかった頃を調べる。</p> <p>【まとめる】</p> <p>○調べたことをもとに、自分のものがたりをまとめる。</p> <p>【広める・見つけ直す】</p> <p>○保護者やお世話になった方々を招待し、感謝の気持ちや3年生になる喜びや決意を伝え合う。</p>					
<p>【地域人材・関係機関】</p> <p>○商店街・駅・新聞屋</p>		<p>【地域人材・関係機関】</p> <p>○商店街・給食センター・プロムナード</p>		<p>【地域人材・関係機関】</p> <p>○町の施設や商店街</p>		<p>【地域人材・関係機関】</p>					

